

## タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 設立趣旨

千歳川流域では、治水対策として遊水地群の整備が進められており、平成27年4月より舞鶴遊水地が供用した。舞鶴遊水地が位置する長沼町は、かつて大小多数の沼地や湿地があり、タンチョウやマナヅルなどの生息地であったが、その後の開拓などの影響により姿を消してしまっている。

現在、タンチョウは北海道東部を中心に生息しており、営巣環境が飽和状態にあることから、タンチョウの生息地分散計画が提唱されているところであり、近年、舞鶴遊水地においてタンチョウの飛来が確認されてきた（平成24年8月、平成28年3月、8月）。

上記の状況などを踏まえ、長沼町では平成27年1月に「タンチョウとの共生検討会議」を設置し、かつてのようにタンチョウが飛来することによる影響及び共生の可能性について検討してきた。

引き続き、千歳川の新たなグリーンインフラである舞鶴遊水地を軸としたタンチョウも住めるまちづくりのあり方やその達成手法について検討するため、札幌開発建設部は、長沼町と連携し、地域の多様な主体が参画する「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」を設立する。